

・□□

204×(20)×6 059

表面の第二字は「サ」冠の文字とみられる。表裏とも墨痕は認められるが判読はできない。木簡の側辺の一部は欠損している。下半は一方から切り込んで幅をせばめ、さらに先端を二次的に削ってとがらしている。また、中央近くには一孔を穿っている。

本木簡は判読はできないものの六世紀末～七世紀初頭のもので、木簡としては最も古い事例に属し、しかも、集落跡から出土した点が注目される点である。この集落を特異な建物をもつ集落、すなわち、渡来系集団の集落と解釈することによって、この木簡の存在が理解されよう。

(林 博通)

## 大阪府立泉北考古資料館

## 『記された世界展』の紹介

一九八三年六月七日から九月二五日にかけて大阪府立泉北考古資料館において「記された世界——大阪府下出土の墨書土器文字瓦と木簡展——」が開かれた。副題にあるように大阪府出土の墨書土器・文字瓦・木簡が一堂に集められ、興味つきない展示であった。同展の概要を紹介した「泉北考古資料館だより」一六号も刊行されている。

## 栃木・下野国府跡

- 1 所在地 栃木県栃木市田村町
- 2 調査期間 一九八二年(昭57)五月～一九八三年(昭58)三月
- 3 発掘機関 栃木県教育委員会・栃木県文化振興事業団
- 4 調査担当者 大金宣亮・田熊清彦・木村 等・中野正人・大橋泰夫
- 5 遺跡の種類 官衙跡
- 6 遺跡の年代 奈良時代～平安時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



下野国府跡は、栃木市の東方を南方へ流れる思川右岸の沖積低地に位置している。この思川を東へ越えた対岸の台地上には、下野国分寺・同国分尼寺(国分寺町)が所在している。

(壬生) 本遺跡の調査は、八二年度の発掘調査(第一八・二〇～二四次)を終了して都合二四、八箇年に及ぶもので